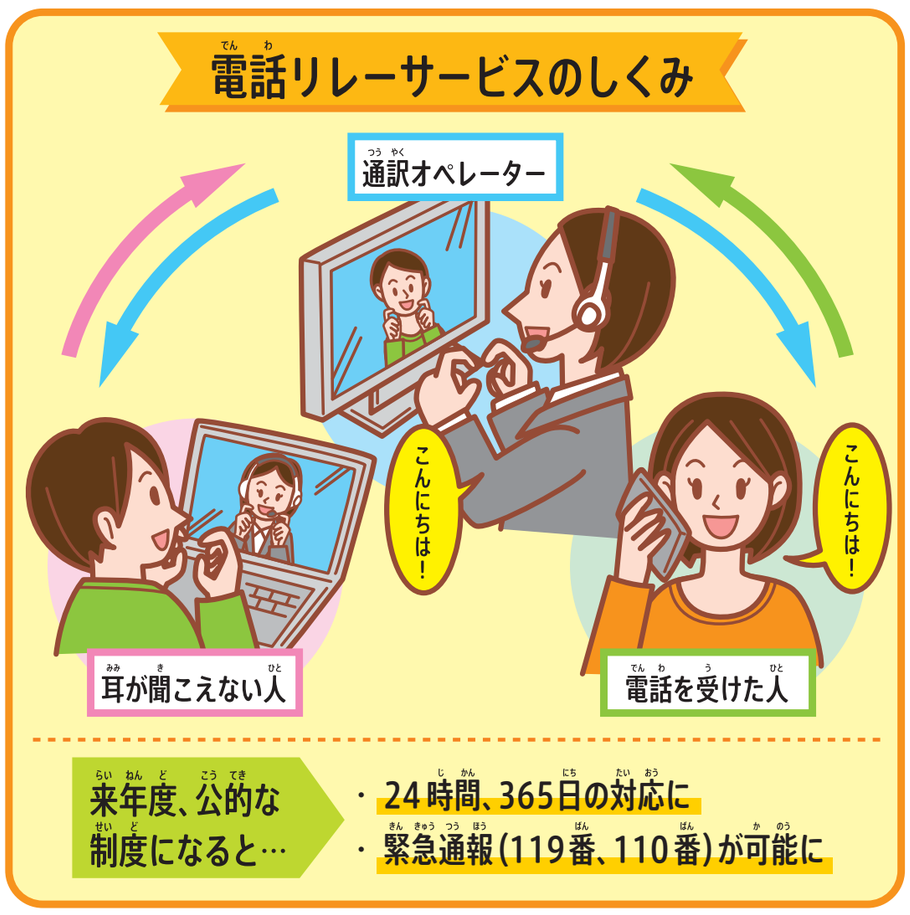
2020年（令和2年） 7月

朝日小学生新聞

号外
12

© 朝日学生新聞社
〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館9階
電話 03-3545-5223（広報） 03-3545-5222（編集）
購読申し込み 0120-415843 ウェブサイト www.asagaku.com



イラスト・たなかさゆり

耳が聞こえない人と

通話のバリアフリー 電話でつなぐ

耳が聞こえない人と聞こえる人の通話を、オペレーターによる手話や文字の通訳でつなぐ「電話リレーサービス」。24時間365日使えるように、このしくみを来年度から国が支援することになりました。だれもが電話を自由に使える「通話のバリアフリー」の実現に、一歩近づきそうです。（中塚慧）

電話リレーサービスは2013年から、日本財団が試験的に行っています。アメリカやフランスなど主要7か国で、このしくみを国が支援していないのは、日本だけです。公的なサービスにして「いつでも使えるようにしよう」という声が高まっていました。

現在のしくみは、こうです。耳の不自由な人が事前に登録し、スマートフォンやパソコンで専用のサイトに入ります。相手の電話番号を入力し、オペレーターが電話をつなぎます。聞こえない人は画面を通してオペレーターに手話か文字で伝え、オペレーターが電話の相手に同時通訳します。電話を受ける人は登録する必要はありません。また、通話料や通訳料はかかりません。

日本財団によると登録者数は約1万1600人（6月現在）。月に約3万件の利用があり、病院やレストランの予約、荷物の再配達などさまざまな場面で使われています。通訳するオペレーターは、11の事業者から利用者が通話の度に選べます。

「電話が使えて助かるという声をいただく一方で、今のしくみでは限界もあります」と日本財団の親松紗知さん。受付時間は最長で午前8時～午後9時で、119番（消防）や110番（警察）の緊急通報は受け付けていません。国が制度化したら24時間、365日の対応となり、緊急通報もできるようになります。制度化にともない、日本財団のサービスは今年度で終わります。

オペレーターが手話や文字通訳でやりとり

電話リレーサービスで記者と通話する伊藤芳浩さん＝本人提供

記者と画面ごしに通話 病院の予約など便利です

電話リレーサービスを公的な制度にしようと活動してきたのが、NPO法人「インフォメーションギャップバスター」です。理事長で、生まれつき耳が聞こえない伊藤芳浩さん（49歳）に、実際にこのサービスを使って話を聞きました。

記者にかかってきた電話の声の主は、女性のオペレーターです。家にいる伊藤さんは画面ごしに手話をし、オペレーターが同時通訳で記者に伝えます。

「7年前にサービスが始まってから、人と会う約束や病院の予約などで使っています。急を要したり細かい内容を確認したりしたい時はメールやファクスだとやりづらいので、とても助かっています」と伊藤さん。

課題も感じています。銀行などへの問い合わせでは、本人であることが確認されます。「オペレーターを介したやりとりだと、認められないことが多いです」。金融庁によると、全国の金融機関のうち、電話リレーサービスに対応するのは3・4％（2019年時点）にとどまります。いたずら電話だとかんちがいされることもあり、「サービスが多くの人に知られることが重要」と考えています。

「子どもたちにも、このサービスで電話がかかってきたら、ふつうに話をしてくれたらうれしいです。聞こえない人も聞こえる人も、スムーズに電話できる社会にしていきたいです」

天声こども語

今日7月22日は大暑です。こよみの上では一年で一番暑い時期です。でも、日本では一年で一番暑いのは8月ですよね。このずれってなんでしょう▼大暑は古代中国で作られた二十四節気の一つで、太陽の動きから一年を24にわけています。昼が一番長い日が夏至、夜が一番長い日が冬至、昼と夜がほぼ同じになる日が春分と秋分です。立春から始まり、大暑は12番目となります▼二十四節気が日本の季節と合っていないのは古代の中国という古い時代に、中国の黄河近くの気候をもとに作られたからなのです▼ずれを直すため、天気予報で知られる日本気象協会が2011年に日本版二十四節気を作ろうとしました。しかし、二十四節気を季語として使っている俳句を作る人たちの反対などがあってとりやめ、代わりに季節の言葉を新たに37語選びました。季節がずれていても、伝統的な言葉を残したい人が多かったのですね。

2020.7.22

◇7月22日付紙面から